

# インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）ドッキョウダイガク	フリガナ）ケイザイガクブ	フリガナ）オカベゼミ
獨協大学	経済学部	岡部ゼミ

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ）ペンギン	フリガナ）サカイタイチ	4	無
ペンぎん	坂井太一		

## 研究テーマ（発表タイトル）

美術を通した世代間同居

※必ず＜企画シート作成上の注意＞を確認してから、ご記入をお願いいたします。

### 1. 研究概要（目的・狙いなど）

近年、学生が抱える経済的な負担が問題視されています。経済的な理由によって進学が妨げられるケースや、進学後も学校に通い続けるために過度なアルバイトを余儀なくされるケースなどその問題の在り方は様々です。また一方で、一人暮らしの高齢者の問題もまた近年深刻化しています。地域から孤立し、人とのかかわりを失い、一日中家で生活するという悪循環は孤独死の原因になっており、行政もこの問題を解決する方法を模索している最中です。

私たちは近頃メディアなどに上げられているこの二つの問題点を同時に解決するサービスをシェアリングエコノミーという今現在注目されているビジネスモデルを通して実現しようと考えています。

### 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

海外を中心に世代間同居の取り組みは着々と進められていますが、日本ではまだまだ発展途上であるといえます。また、シェアリングエコノミーと呼ばれる元々ある物やサービスを共有するというビジネスモデルも近年成長しているものです。

学生と一人暮らしの高齢者の双方が抱える問題を 1 つの方法で解決するためには、それぞれに対しての大きなメリットがなければなりません。そこで私たちは学生側を美術大生に、高齢者側を都内に住む一人暮らしの高齢者にターゲットを絞ってサービスを展開していきます。

美術大学の学費は一般の文系大学の学費の約 2 倍あり、学生の専攻内容によって版画や彫刻など、次々の出費も多い現状があります。またアルバイト収入に目を向けても 5 万円以下という人が最も多く、支出と収入のバランスが合っていないことがわかります。

一方一人暮らしの高齢者に関しては、全体の 4 割が都内に住んでいます。美術大生との同居を通して緊急時の手助けや、アートセラピーと呼ばれる絵画作品を描く、見るという行為を通して老化防止や認知症予防が見込めます。アートセラピーの効果は研究によって証明されているほか、高齢者施設でも費用がかかるという理由によりあまり行われていないので、その点でも差別化が図れます。

シェアリングエコノミー自体に関しては 2015 年度の市場規模が前年度比 22.4%増の 285 億円となっており、今後も成長していくことが予想されています。

### 3. 研究テーマの課題

私たちが検討しているサービスを展開していくうえでの課題は、高齢者と学生のトラブルを防ぐためにも、どのようにしてマッチングを行っていくかということが挙げられます。マッチングの質を担保することはターゲットとなる高齢者と学生やその家族に対して安全安心を提供することにもつながるため、解決しなければならない課題であるといえます。

### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

上記の課題解決のためには、実際にこのモデルが成功している海外での研修が必要不可欠であると考えています。日本での世代間同居の取り組みは発展途上であり、マッチングをコーディネートする仕事も現段階では存在していません。この取り組みがより進んでいる海外でのコーディネート方法をこの NPO が学ぶことによって、この課題を解決すると同時に、将来的に「マッチングコーディネーター」としての新たな業務を担うことも可能になると考えています。またフランスではコーディネーターを通して行われた 1000 組の世代間同居に関するマッチングにおいて 95% という高い評価を得ていることから海外の例から学ぶことに優位性があると言えます。

その他には一定期間サービスを行った際に得ることができるビッグデータをマッチングに還元することでより質の高いコーディネートが可能になると考えています。

### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

このサービスを創り上げていくうえで、類似したサービスを展開している、またはしていた団体にアプローチし、日本で高齢者と若者による世代間同居の取り組みが進んでいない原因を探りました。

経済的負担を抱える学生と一人暮らしの高齢者の現状を知るために、苦学生支援の NPO 法人様とアポイントを取りお話を伺いました。一方高齢者側の現状分析では、区役所の高齢者福祉課とのアポイントを経て、一人暮らしの高齢者が現状抱えている問題点や行政の取り組みなどをお聞きすると同時に、行政からのこのサービスへの協力の可能性についてもお話ししました。また、同居に関する法律についても、大学の教授などにお話を伺い、部屋の広さなどの規定について理解を深めました。区役所での調査で得ることができた高齢者の抱える問題点に対して、世代間同居を経て高齢者の問題点を解決できるような学生像をより細分化し、私たちの班では美術大生という結論に至りました。そして、美術大生側からみてこのサービスは魅力があるものなのかどうかを、アンケート調査を実施しニーズを確認しました。

### 6. 結果や今後の取り組み

調査を行った結果として、高齢者と若者（学生）の両方のニーズとメリットが、お話を伺った既存のサービスでは少ないことがわかりました。そこで学生のターゲットを美術大生に細分化し、研究でも効果が証明されているアートセラピーという療法をこのサービスに用いることでメリットを見出しました。この観点に関してはアポイントを取った団体様からも好評をいただくことができたため、ニーズやメリットを創り上げる方法として良いものだったと感じています。また美術大生からのフィードバックも予想していたものよりも良いものであったので実現可能性も十分あると感じています。サービスを展開していくために今後必要となることは、ホームページの作成や実際に海外に足を運び、マッチングコーディネーターなどにお話を伺うことなどを通して、マッチング方法を具体的に定める準備をしていかなくてはならないと思っています。そのうえで、プレリリースの発行など広報に着手しターゲットとなる高齢者と美術大生にアプローチしていく流れを考えています。

### 7. 参考文献

総務省 経済白書 シェアリングエコノミー ソーシャルメディアを活用した新たな経済 (8/8)

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/html/nc242110.html>

多摩美術大学 (2016)「美術学部の学費」(8/17)

<http://www.tamabi.ac.jp/admission/expense/fad.htm>

いえらぶ (2016)「大学生の生態調査」(8/16)

<http://www.ielove-campus.com/anket/>

高齢社会対策「高齢者関連団体活動状況調べ」(7/30)

<http://www8.cao.go.jp/kourei/dantai-mokuji.htm>

アートセラピーパーク (9/5)

<http://www.artiro.com/senior-art>

絵画療法とその効果の唾液コチゾールによる評価(9/5)

<http://ci.nii.ac.jp/els/110005857929.pdf?id=type=pdfhomes>

<http://www.homes.co.jp/chintai/tokyo/list/>

世田谷区高齢福祉課「第 6 期世田谷区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」

(平成 27 年度～平成 29 年度)

荒川区役所「荒川区高齢者みまもりネットワーク」平成 28 年度

## インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となります。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、3 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限り、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。